

吉田川志田谷地防災センター オープニングセレモニー（開催）

- 吉田川・新たな「水害に強いまちづくりプロジェクト」の一環である、**吉田川志田谷地防災センターの工事が完成したことから、令和4年10月21日（金）にオープニングセレモニーを開催**（大崎市の関係者や住民など約50人が参加）
- 『今後の吉田川治水について』と題して講演した鶴田川沿岸土地改良区の千葉理事長は、『**吉田川志田谷地防災センターを流域治水の拠点として今後活用し、一体的流域治水が進捗するよう推進していきたい**』と期待の言葉を話しました。



▲吉田川志田谷地防災センター 完成



▲くす玉開披



▲記念演奏（鹿島台小学校ブラスバンド部）



▲パネル展 『令和元年東日本台風から3年』



▲大崎市長 伊藤 康志



▲河川部長 板屋 英治



▲鶴田川沿岸土地改良区理事長 千葉 榮

挨拶「吉田川志田谷地防災センター」 オープニングセレモニー



■伊藤 康志 大崎市長 挨拶

- 大崎市におきましては、防災、減災、国土強靱化が確実に発揮できるよう、遊水地や田んぼダムなどの流域治水に向けた取り組みも確実に推進しております。また、国土交通省で進める、吉田川の河道掘削工事により流下能力の向上が図られ、流域治水が一層進められたことに、深く感謝申し上げます。
- 7月の豪雨の際には、一時避難場所として使用し、16名が避難したほか、志田谷地地区の農機具避難場所としても活用され、吉田川流域治水の重要な防災拠点の一つとして、住民皆様の安心安全を支えていく施設として役割を果たすことをお誓い申し上げます。



■板屋 英治 東北地方整備局河川部長 挨拶

- 吉田川流域では、昭和61年八月豪雨の発生を契機に、「水害に強いまちづくりモデル事業」を策定し、国、県、自治体の連携により、氾濫が発生した場合にも被害を最小化するための減災対策を全国的に先駆けて進めてきたところです。
- 今後、地域の安全・安心の確保を図る上で、流域のあらゆる関係者が協働し、流域治水を加速化させ、プロジェクトを実践していく必要があるものと考えています。
- 東北地方整備局としても、今後とも吉田川の出来るだけ早期の治水効果の発現を目指し、精一杯頑張ってお参ります。



■千田 豊治 おおさき宝大使 祝辞

- この志田谷地地区に生まれまして、子供の頃の思い出は、堤防決壊により、自分の家が屋根裏まで水浸しになって、堤防へ避難をした事を覚えております。
- 志田谷地地区には、すごく思い入れがあり、ふるさとになにか恩返しできないかと、東日本大震災以来、ふるさとに11年間支援させていただいております。今後とも仕事に邁進しながら、少しでも皆さんのお役にたてるよう、益々頑張っていきます。



■関 武徳 大崎市議会議長 祝辞

- 大崎市水害に強いまちづくりについて、有識者による共同研究として専門会議が設置され、この地域の特性に応じた長期的視点かつ抜本的な水害対策を図るべく議論が重ねられてますが、その成果に大いに期待を寄せております。
- 7月の豪雨時に避難場所として活用され、志田谷地地域の皆様には、地域防災の拠点施設であるこの施設の役割、機能といったものを、身をもって感じる事ができたのではと思っております、今後、コミュニティ施設として、大いに活用していただきたい。



■千葉 栄 鶴田川沿岸土地改良区 理事長 期待の声「今後の吉田川治水について」

- 本年7月豪雨では、国の河道掘削により、大きな水位低減効果がみられた。流域治水については、国だけでなく、宮城県、市町が一体となって推進する事が重要であると感じている。
- 内水対策を講じることが常々重要だと考えており、排水機場の機能向上を国営事業として進めてもらえるように要望を続けてきた。農林水産省により「総合治水事業の吉田川地区」として調査を開始してもらえることは非常に喜ばしいことである。